「楽しさ」と「成果」が両立する委員会活動を！

特許第１委員会　委員長
吉岡　恒幸 氏
（所属：アニコム ホールディングス株式会社）

interview

自己紹介

2019年より特許第１委員会に参加。2020-21年度の副委員長（第３小委員長）を経て、2022年より委員長に就任。
2023年度・JIPAシンポジウムでの委員長座談会や、2024年度・会員代表の集いなど、「専門委員会の顔」として活躍しています。
（2024年10月より、所属が変わりました。）

Q　研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

【2024年度の研究テーマ】
第１小委員会：特許制度の在り方に関する研究
・「除くクレーム」の在り方に関する調査・研究
・シミュレーションで特定された物の発明の特許性に関する調査・研究
第２小委員会：記載要件に関する研究
・生成AI利用発明の記載要件に関する調査・研究
・サポート要件違反に対して、反論のみで克服した事例に関する調査・研究
第３小委員会：審査の質・進歩性に関する研究
・分割出願におけるサポート要件の審査に関する調査・研究
・生成AI利用発明の進歩性判断に関する調査・研究
第４小委員会：トレンドを踏まえた特許に関する調査・研究
・生成AIの特許権利化業務への応用に関する調査・研究

当委員会は、主に日本を対象に、特許出願の出願・権利化を取り扱っています。10名程度で構成される４つの小委員会に分かれて活動しており、それぞれの小委員会に大枠でのテーマを割り当てています。その中で、委員のみなさんの希望を踏まえて、具体的な研究テーマを決定しました。

今年度は、みなさんの関心が高い「生成AI」に関連するテーマが多くなりました。生成AI利用発明に対する出願対応を各社が模索している中で、どのように出願すれば記載要件・進歩性を充足するのか、という実務的な知見を得ることを目的としています。また、生成AIが出願権利化業務にどのように活用できるか、有償版のChatGPTを使って検証しているテーマもあります。さらに、「除くクレーム」のように、実務で感じている問題意識を解決すべく、制度の在り方・あるべき姿を明らかにしようという、意欲的なテーマもあります。

これらの成果は、論説にまとめて、知財管理誌に掲載する予定です。ぜひご期待ください！

Q　委員会の特長／魅力は？

自社だけでは得られない知見・経験・人脈を得られることだと思います。

委員会に参加することで、研究テーマに関する深い専門知識はもちろん、研究過程やメンバーとの意見交換から実務上のノウハウを得ることなどができます。当委員会の場合には、特許庁や弁理士会など多くの知財関係者との接点を持つこともできますし、私個人としても、JIPAシンポジウムをはじめとした、JIPAが主催する多くのイベントでお話しする機会をいただきました。

また、委員長・副委員長は、委員会メンバーを引っ張っていくことが求められる役割ですので、チームマネジメント力を鍛えることができます。特に、委員会のメンバーは、上司・部下の関係ではないので、メンバーの自主性を重んじながら一体感を持たせていくことが求められます。委員会（チーム）として成果を出すための実践的な工夫が、随所に見られます。

こういった経験は、やっぱりJIPAだからできることで、委員会活動の醍醐味だと思います。

Q　委員会としてのこだわりは？

まずは、楽しくやることです！　会社から命じられて参加した方もいらっしゃるでしょうが、どうせやるなら、嫌々やるよりも楽しんでやるほうが、得られることは多いはずです。

そのうえで、今年度は特に、成果を出すことにこだわっています。「成果」は、研究成果には限りません。メンバーには、もちろん研究でもいいですが、みんなと仲良くなるとかでも何でもいいよって言ってます。一人ひとり、委員会に参加している目的は違うと思いますので。漫然と１年間を過ごすのではなく、委員会に参加した目的を明確にしてもらって、各自が期待していた「成果」をしっかり持ち帰ってもらいたいと思っています。

ときどき、「委員会活動って飲み会だけなんでしょ？」みたいなことを言われることもありますが、全然そんなことはないって、強く言っておきたいです。昔は知りませんが（笑）。飲み会で仲良くなったり、同じ時間を過ごすことで一体感を得たり、こういう楽しみももちろんあります。ですが、委員会に対する一番の期待は研究成果である論説なので、会員企業のみなさまへ有益な情報を提供することは、決しておろそかにはできません。特に、当委員会が取り扱っている特許の権利化はみなさまの関心も高いでしょうから、会員企業の役に立ち、知財業界の発展に貢献できる内容をしっかりお届けすることを心がけています。他の委員長から「特１は厳しいね」って言われることもあるくらい、委員会メンバー（特に委員長代理・副委員長のみなさん）は真剣に取り組んでくださっていることを、この機会にアピールしておきたいです。

最後１年が終わるときに、ご自身の成長を実感できて、参加してよかった／参加させてよかったと思っていただきたいですね。委員のみなさんのますますの活躍にご期待ください！